

不良を自負するなら
コレを読め

他では見れない不良文化を等身大で見せていく

2013年5月号(毎月26日発売)3月26日発売 第27巻第5号通巻306

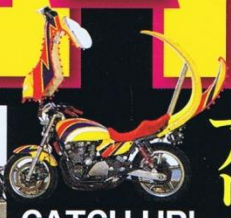


チャンプロード

CHAMPROAD

5 2013 May 月号

定価 500円
価格ワンコイン



CATCH UP!

佐賀県発

女旧車會
紫蘭

今明かされる
アリーキヤッツ事件簿

千葉走命連合
習志野
スペクター
悪神會

lam

族

街道レーサー

鳥取県 乱舞レーシング
岐阜県 甕れ 昭和魂



有名SHOPカスタムCBX大特集 時空を超えた改造愛

我ら旧単車會・愛媛・松山旧車會
我ら旧単車會・徳島・鳴門麗心愚
我ら原チャリ部隊・茨城・水戸縦型愛好会



改造天国

カスタムの祭典・東京オートサロン2013の会場で、
ギャラリーの注目を浴びていたヴェイルサイドのバイク「4509パイソン」。
前号に引き続き今回は、この近未来バイクの魅力と製作工程に迫る。

日の丸
改造魂を
全世界に広めた伝導者

日本が世界に誇る
カスタムバイクで
楽しもうぜー!

このスゴさを
感じてもらいたい!!

4509
PYTHON
近未来チョッパー風
スクーター遂に始動!

VeilSide

ヴェイルサイド代表

横幕 宏尚 氏 (よこまく・ひろなお)

昭和 37 年生まれ、51 歳。東京・葛飾区出身で、当時の暴走族チーム「貴族」に所属。1990 年に設立したヴェイルサイドで国内カスタム業界を席巻し、2007 年～輸入車カスタムの「PREMIER 4509 LIMITED」ブランドもプロデュース。
<http://www.premier4509jpn.com/>



東京オートサロン2013 ブースをプレイバック

独創的なデザインヘッドライトは、スタイリッシュにフロントを照らし出す。

デジタル式の小型メーターは赤いLED文字で、エンジン回転数・速度・走行距離・ODOメーター機能を表示。

車名のバイソン=ニシキヘビをイメージした革シートは、左右対称と曲面の成形に高度な技術を必要とする。

フロントの大口径タイヤは、モンスター120/70R23インチ×4.5Jホイールを装着する。



フロントのブレーキはブレンボ製で、スリット入りディスクを装備。ピアスポルト付き大径23インチホイールと相まって、迫力あふれるスタイリングだ。



ステップの下には、イグニッション連動の電動スタンドを装備。スワロフスキー、革ベルトでドレスアップ。



ブレーキランプ一体化のウインカーは、シート下の左右に配置。スイングアーム、右4本出しマフラーもシブい。



大迫力のリアタイヤは、360幅18インチ×13Jホイールを装着。リアタイヤの高さより低いシート位置にも注目。

この夢のバイク製作の構想は、前回の東京オートサロン2012前から始まっていた。ショー後の昨年3月から約8カ月の製作期間を経て、遂に完成を果たしたのだ。

次ページからは、生みの苦しみ・喜びに満ちた製作工程を見ていこう。

年頭に開催されたカスタムの祭典、東京オートサロン2013へ参考出品された「4509 バイソン」。彼の名字を反転させた「veer」(暮) + Side (横) ブランド、ヨシマツ II 4509の数字を冠したバイクに注目が集まる。ブースを訪れた観客カメラマンが放つ眩いフラッシュの先に、眼を細める横幕氏の姿もあった。その視線は生みの親が我が子を見守るが如く、表情は優しくも誇りに満ち溢れていた。

情熱が、この独創的なバイクを誕生させる原動力となった。

「今こそ再び改造の原点に立ち返って、バイクでニッポンのカスタム文化を世界へ発信したい。」そんなアツい情熱が、この独創的なバイクを誕生させる原動力となった。

カーアクション映画「ワイルドスピード」に登場したチューニングマシンで、日本のみならず世界から大人気を集めた「ヴェイルサイド」。その輝かしい歴史は前号で紹介したが、今回は注目の近未来バイク「4509 バイソン」の魅力と製作の舞台裏に迫る。

ヴェイルサイド代表の横幕氏は、好きなバイクに対する想い入れも深い。「今こそ再び改造の原点に立ち返って、バイクでニッポンのカスタム文化を世界へ発信したい。」そんなアツい情熱が、この独創的なバイクを誕生させる原動力となった。

改造の原点を振り返れば
バイクとの思い出が蘇る

4509 PYTHON 製作工程に迫る!

世界唯一のオリジナルバイク「4509パイソン」は、ヴェйлサイドのファクトリーで生み出された。エンジン以外は全て横幕代表のワンオフ設計で、コダワリの製作工程をダイジェストで振り返る。



台座の上にパイプでフレームを組み立て、横幕氏が自ら溶接の作業を始める。



各パイプをサイズ通りに削り出し、曲げて組立・溶接に向けて微調整する。



バイクの設計図に基づいて、フレームを構成するパイプを切り出していく。

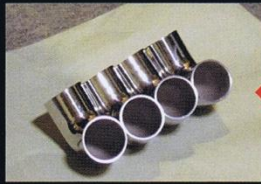


1 FLAME

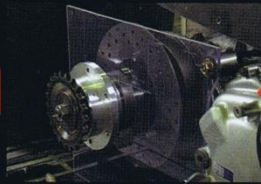
●フレーム

まず骨格となるフレーム パイプ切削・組立・溶接

ヴェйлサイド代表の横幕氏が、自ら設計・デザインした夢のカスタムバイクの製作をスタートした。パイプを切り削り、曲げ溶接しながらフレームを組み立てていく。エンジンのフレームやシングアームには、航空機にも使用されるジュラルミン7075材質を採用している。



装着するマフラーは、ボディ右サイドに4本出し仕様。迫力あるルックスだ。



エンジンを水平にして、エンジンフレームを製作するためアクリル板で寸法を出す。



後輪のドライブシャフトは、250cc スクーターのマジェスティ用エンジン対応。



ハンドルと前後のタイヤを取り付け、バイクの骨格であるフレームが完成した。



アメリカなロードチョッパー風スタイルに、ハンドルの角度を調節する。



ガソリンタンクやエアタンクの位置を決め固定し、フレームの溶接作業が続く。



ボディの材質は硬質ウレタンを採用し、重ねてグラスファイバーで覆いながら造形。



組み上がったフレームに、ボディの各カウルを仮装着すると、こんなイメージだ。



メインのボディは、シートの股先に大きく穴を開けた大胆なデザインを採用した。



2 BODY

●ボディ

続いて外装のボディ製作 カウル造形・研磨・取付

フレームの組立・溶接の次に、バイクの外装となるボディの製作に取りかかる。ボディの材質には硬質ウレタン、グラスファイバーを採用しカウルを造形した。ヤマハ・マジェスティ用250cc エンジン以外の駆動系、サス、ブレーキ、タンク類までワンオフ製作なのだ。



各カウルを仮フィッティングし、フレームやタイヤに干渉しないかチェックする。



凸部分や曲面はサンドペーパーで磨きながら、キレイに表面を仕上げている。



立体的なデザイン部分は、バテ状のエポキシ配合樹脂を使い盛って造形していく。



すべてのカウルをフレームに装着すれば、ボディが完成しバイクの姿が見えてきた。



横置きエアサスペンションのリンクエッジを取り付け、干渉しないか上下幅もチェック。



エンジンのフレームは美しく鏡面に磨き上げ、ボルトで固定していく。



サフェーサーの下地塗装が終わったら、ボディの各カウルを乾燥させる。



ボディの塗装は、まず下地にサフェーサーをエアスプレーで吹き付けていく。



フレームの塗装は、電気溶着によるブラックパウダーコートを採用した。



3 PAINT

●ペイント

フレーム&ボディの塗装 下地〜上塗り仕上げ完成

フレームの組立・溶接、ボディの造形・フィッティングを経て、いよいよ最終工程に突入する。フレームは電気溶着塗装でブラックパウダーコート、ボディはサフェーサー+本塗装する。塗装しない部分は鏡面に磨き、配線や装飾を仕上げれば遂に完成となる。



エンジンのフレームなど塗装しない部分は、美しい鏡面に磨き上げられた。



フレームとボディ下地の塗装が終わり、ライトまで仮フィッティングの状態。



乾燥を終え、再びフィッティング。これからハンドルの塗装、メーターも装着する。



本塗装したボディをフレームに装着し、遂に「4509 バイソン」が完成した!



フレーム、ハンドル、スイングアーム、ホイールまで全ての塗装が終わった。



フレームと同様に、スイングアームもブラックパウダーコートで溶着塗装した。

改造のカリスマが語る“バイクの未来”



ニッポンのカスタム魂を乗せて
新たな夢の世界へ走り始めた!



VeilSide
ヴェイルサイド

茨城県つくば市真淵 1250-3
TEL: 029-838-1104
営業時間 10:00 ~ 18:30
定休日: 毎週水曜・日曜
<http://www.veilsidejpn.com/>

「今まで日本のマーケットに存在しない、世界に向けた新しいオリジナルのカスタムバイクを作りたかった。コンセプトはロードチョッパー風スクーターで、48面デザイン構成のカウル付スタイルで造形を楽しみました。ショー展示の後も好評で、国内や海外から多くの問合せを頂いています。来年の東京オートサロン2014に向けて、早くも第2弾となる新作バイクの製作プロジェクトを始動しているので、お楽しみに!」